

4章

各分野

攻略法

文化史

文化史は一番「丸覚え」が起きやすい分野です。しかし、丸覚えが防げれば、試験全体の1～2割の得点が手に入るので、コスパは良いと言えます。

コツとしては、絵画や建築だったら**その作品や建物の写真と一緒に**、文学だったら**内容も一緒に覚えること**がオススメです。

私がつくった「culuture20」というプログラムには、文化史が、作品や内容と覚えられるように設計されているので、自分で調べることが面倒な人は、私のプログラムでマスターしてしまいましょう。

イスラーム史

イスラーム史はややこしい歴史ランキング1位ですよ。これは教科書の書き方が100%悪いです。

しかし、イスラーム史も攻略法さえ分かれば、右往左往することはありません。

イスラーム史の攻略法としては、**各地域史を勉強してから、ヨコを繋げる**という順番です。「東南アジアマスター講座」でも同じ話をしていますが、この攻略法が一番効率が良いです。

各地域史というのは、イベリア、エジプト、イラン、中央アジア、アフガニスタン、アフリカに分けてそれぞれ学んでいくということ。

メルマガでプレゼントした語呂合わせ集に、それぞれの語呂合わせが載っていますし、私のブログにも各解説を載せているので、これもまた自分で整理するのが面倒な人はぜひぜひ活用してください。無駄な時間は省きましょう。

各国史をまとめて載せてあります。語呂合わせもぜひ覚えてください。

<https://kate.fun/isuramu/>

中国史

中国史は長いし漢字ばかりで苦手な人が多いですね。

中国の各王朝の勉強はしやすいですので、悩みとしては10世紀は中国でどんな王朝があった？と聞かれたときに「う～ん」となってしまうことでしょう。

勉強の流れとしては、2段階あります。

- 1 中国史だけをタテで覚える
- 2 他の地域との関連、全体像を見て、ヨコを覚える

です。

中国史のポイントとしては、他の地域との関連をどれだけ把握しているか、いかに時代の流れを俯瞰できるかです。

ヨコの歴史もやらなくてはならないということが分かりますね。

しかし、いきなりヨコの歴史を覚えようとするとかパオーバーして勉強が進みませんので、

まずは、漢なら漢、明なら明で中国史だけをマスターしていきます。

王朝と王朝のつながり、各王朝の政治、経済、社会、文化をしっかりと勉強しましょう。

その段階が終わった時点で、点数はとれるようになっていますが、もう一越え。ヨコのつながりをおぼえていきます。

例えば、明の時代に銀が流通し出したのは、

ヨーロッパでは航海が流行り、その結果アメリカの鉱山を見つけて、そこからとれた銀がヨーロッパに流れ、さらにその銀で取引をし始めたからですね。

ヨーロッパにとって中国は良い取引相手だったので、中国にも銀が流通するようになったわけです。

このように、大国である中国は、世界国々に影響を与え、与えられている国です。

中国史をマスターするのに、このようなヨコのつながりは不可欠です。

じゃあ、どのようにおさえていくかというお話ですが、方法は2つです。

1つはまとめノートをつくって、地域別に出来事を書き出し、ヨコのつながりを自分でみつけていくことです。

自分で手を動かすので頭には入りやすいです。ただ、時間がかかりまくります。

2つめは「ヨコから見る世界史」でマスターする、です。

この本には、中国と他の地域の経済や文化の関連が分かりやすく書かれています。

ノートを作るよりも圧倒的に早く押さえられるのでストレスもかからず良いです。ただ分かりやすく理解しやすい分、復習をたくさんする必要があります。

私としては後者がオススメです。時間が省けますし、復習をしやすくする工夫さえすればいいので、圧倒的にメリットの方が大きいです。

ヨーロッパ史

世界史の教科書はヨーロッパがメインですし、ヨーロッパだけは結構詳しく書かれているので、押さえやすい分野だと思います。

その分ヨーロッパ史はちょっと捻った問題も出やすいので、出来事と出来事の**因果関係**をしっかりとおさえていくことが大切です。

例えば、マルティン・ルターが宗教改革を始めましたが、これはなぜか
というと、教会が免罪符を売って儲けていたから、腐敗していたからで
すね。

教会の腐敗→宗教改革

という因果関係があります。

ある日突然、ポツと事件が起こるわけではないので、「なぜ」「どのように」を中心に出来事をおさえていきましょう。

近現代史になると、教科書は急に分かりづらくなるので、(第一次世界大戦あたりは特に。)ここは特に参考書や授業を活用しましょう。

東欧史、ラテンアメリカ史、アフリカ史(情報量が少ない分野)

東欧は、スラヴ人登場から始まって、ポーランド、ハンガリー、ルーマニアなど現代史に至るまで、教科書では「分かりにくい」の極みです。

分かりにくく書かれてしまうのは理由があって、説明するだけの情報がないことが原因なんです。

高校生が学ぶ内容じゃねえなってところは省かれて書かれるので、因果関係も見えません。

ぶつ切りで歴史を学ぶことになるのでこんがらがるといわけですね。

じゃあどうしたらいいか

東欧史は、2段階で勉強しましょう。

1. 世界史全体を学ぶときに一応一緒に勉強しておいて、分からなかった部分をチェック。

2. 分からなかった部分を中心に、東欧史だけをマスターする。できればノートも作ってしまう。マスターできたらヨコのつながり。

この2段階。ラテンアメリカ史、アフリカ史も同じやり方でやりましょう。

この地域も情報量が少ないので、この方法で攻略できます。

1 まずはヨーロッパ史を中心に全体的に勉強することをおすすめします。その時に東欧史も理解できればそれでいいですし、分からなければ印をつけてほっときましょう。

参考書や授業を受けているときに、「あ、ここ東欧史だな」って思ったら、あとで分かるように印を付けておいてください。

後に東欧史だけを勉強するとき役に立ちます。

2 世界史の全体を把握した上で、東欧史だけをやります。印をつけておいたので、探す手間は省けます。

「縦から見る世界史」には各地域史が載っているので、それおを読むと理解がスムーズになります。(9章「東欧」の部分です。)

できればノートをつくり、他の国との関連を可視化しておくとう理解がグンっと高まるのでオススメです。

ノートもつくれ、理解もできたら仕上げに一問一答問題集で問題を解きましょう。

問題があんまり載ってなければクイズをつくるのもオススメです。

スラヴ人の解説はこちらでしています。

<https://kate.fun/norumann-suravu/#i-5>

ロシア史、アメリカ史

ロシア史、アメリカ史は押さえ方が似ているのでまとめて紹介しています。

この2つの地域の特徴としては、有力なリーダーが次々と変わっていき、さらにそれぞれの人物がなにをしたかをしっかり押さえなければなりません。

ここでも登場、「縦から見る世界史」では、各国史が載っていて、アメリカもロシアも詳しく書いてあるので、理解、整理に役立ちます。

これを読んで理解し、大統領、皇帝が何をしたか、どうしてそうなったか、その後どのようなことが起こったかをおさえていきます。

自分でノートを作っても良いですし、直接本に書き込んでいくのも良いです。

とにかく因果関係を捉え、自分の中で整理をしていって下さい。

また、復習することも忘れずに。問題集をやるなり、クイズをつくるなりしましょう。

インド史

インド史は教科書にも詳しく書かれているので、割と把握しやすい分野だと思います。

ただ、古代から現代まで、長い歴史があるので、中国史のように、**タテ**を学んだら**ヨコ**の把握に徹底しましょう。

朝鮮史

朝鮮史は中国と日本との関係を見ながら押さえていくのがオススメです。

現代史はほとんど日本との関係なので、どのようにして日本に支配されていったかを中心におさえていくと良いです。

それまでの朝鮮史に関しては、中国との関係を各王朝の特徴をしっかりと学習しましょう。

ちなみにここだけの話、首都と文化を押さえるだけでめっちゃ点がとれるので、それ中心に覚えましょう。

騎馬遊牧民史

最後に、北アジア史。騎馬遊牧民の国家の変遷ですね。

これも教科書では説明が断片的で、いきなり「オアシス」とかでてくるので、こんがらがる人が多いです。

ここでも教科書を読みながら、一人で唸っているよりも、「縦から見る世界史」で一気に押さえてしまうのがオススメです。

この本のオススメしかしてないですね(笑)

最初は分かりにくくても、だんだん中国にちよっかい出したり出されたり
りの関係を持つ国家だと分かってくるので、そう構えずに勉強しましよ
う。

また、彼らはトルコにも進出してきて、イスラーム史にも影響してくる
ので、早めに押さえておくと非常に楽です。

まとめ

いかがでしたか？各国史の攻略法の紹介でした。

世界史が分からないとぼんやり悩むのではなく、模試を分析して「ここが分かっていない」ということを突き止めて、そこだけ集中的に勉強しましょう。

全体的に世界史がまだ分かっていないのなら、まだ基本的な勉強が不足している状態です。前章に戻ってひたすらに勉強しましょう。

次章では、夏休みの勉強戦略について解説していきます。

